



鬼ノ城について学習できる鬼城山(きのじょうざん) ビジターセンター



城内に残る礎石建物跡



屏風折れの石垣



西門



角楼 (かくろう)

温羅伝説

史実と物語『桃太郎の伝説』

第11代垂仁天皇のころ、吉備国に「温羅」という異国の王子がたどり着いた。髪やひげはぼうぼう、性格は極めて凶悪。温羅は備中国新山に居城「鬼ノ城」を築き、貢物や婦女子を略奪し、人々に恐れられた。そこへ、大和朝廷から温羅退治に送り込まれたのが「五十狹芹彦命(吉備津彦命)」。命は大軍を率いて「吉備の中山」の西に石櫓を築いて布陣し、矢を射って攻撃した。一方、温羅は山城である鬼ノ城から岩を投げて迎撃。矢と岩は何度も空中でぶつかり、こう着状態が続いた。そこで、命は神力を発揮して同時に2本の矢を射ると、片方の矢が温羅の左目に命中。温羅の目から吹き出した血潮は血吸川に流れ、下流の赤浜まで真っ赤に染めたという。

傷ついた温羅は、雉に姿を変えて山中に隠れたが、命は鷹となって追いかける。ならばと、温羅は鯉に化けて血吸川に逃げ込むが、逃すまいと命は鵜となって追いつき、鯉に姿を変えた温羅をかみあげた。吉備津彦命に成敗された温羅の首は、吉備津神社の御釜殿の土中深く埋められたが、その後13年もうなり続けた。

ある夜、命の夢枕に立った温羅が「わが妻、阿曾媛に神饌を炊かしめよ。これまでの悪業の償いに、釜をうならせて世の吉凶を告げよう」といった。これが、吉備津神社の「鳴釜神事」の始まりといわれている。



日本遺産

桃太郎伝説の生まれたまち おかやま ～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～

ストーリーの概要

いにしえに吉備と呼ばれた岡山。この地には鬼ノ城と呼ばれる古代山城や巨大墓に立ち並ぶ巨石などの遺跡が現存する。これら遺跡の特徴から吉備津彦命が温羅と呼ばれた鬼を退治する伝説の舞台となった。

鬼退治伝説は、古代吉備の繁栄と屈辱の歴史を背景とし、桃太郎伝説の原型になったとされ、吉備の多様な遺産は今も訪れる人々を神秘的な物語へと誘ってくれる。



JAPAN HERITAGE



谷に築かれた水門

桃太郎の鬼退治

吉備の山里には温羅伝説ゆかりの史跡がたくさんあります。物語を思い描きながら訪ねてみては…



鬼の差し上げ岩

温羅が岩を差し上げて作った棲み処とされる。巨岩に残るくぼみは差し上げたときにできた手形とか…



鬼の釜

鬼ノ城の登山道わきにある大きな鉄の釜。温羅がいげにえをゆてたとされる。●日本遺産構成文化財



楯築遺跡 (倉敷市矢部)

弥生時代の墳丘墓だが、伝説では、吉備津彦命が石櫓を築き防戦準備をしたといわれている。●日本遺産構成文化財



矢置岩 (岡山市吉備津)

吉備津神社の参道わきにある大きな石。吉備津彦命が射る矢を置いたといわれている。●日本遺産構成文化財



矢喰宮 (岡山市高塚)

温羅が投げた岩が空中で吉備津彦命の放った矢とぶつかり落ちた場所といわれている。●日本遺産構成文化財



鯉喰神社 (倉敷市矢部)

鯉に化けて血吸川へ逃げ込んだ温羅を、鷄に姿を変えた吉備津彦命が捕まえた場所とされている。●日本遺産構成文化財



吉備津神社 (岡山市吉備津)

吉備津彦命を祀る吉備国の総鎮守。御釜殿の土中に埋められた温羅の首が、かまどにかけられた釜を鳴らして吉凶を告げるといわれる「鳴釜神事」は有名。●日本遺産構成文化財